

「第9回 シンポジウム 関西のインフラ強化を進めるために － 関西再生のためのインフラ整備構想について－」

開催報告

(一社)近畿建設協会

関西を日本のリーディングエリアとしていくために、それに必要なインフラ整備のあり方や仕組み等について、産官学の多くの有識者で方向性を議論し、実現に向けた構想などをとりまとめて広く発信していくため、平成29年4月に「関西のインフラ強化を進める会」を発足させました。この度、第9回シンポジウムを7月6日(火)に開催しましたので、ご報告いたします。

①実施日時

2021年7月6日(火)

14:00～17:00

②会場

メルパルクホール

(メルパルクおおさか 2階)

③参加者

【会場】 約300名

【オンライン】 約580名(申込)



井上氏



吉津氏



小林委員長



村尾氏



東氏



吉野氏

●国際博覧会担当大臣 井上信治氏による特別講演、建設コンサルタンツ協会近畿支部長 吉津洋一氏によるプレゼンテーションが行われた。

井上氏は、万博の概要や具体化に向けた今後の取組みについて説明し、万博に関連したインフラ整備推進の重要性を指摘した上で、広域的な交通インフラ整備を含め、大阪・関西がより発展するような計画を策定すると強調した。

吉津氏は、関西再生のためのインフラ整備構想として、大阪都心、関西圏、西日本へと広がる3大プロジェクトを紹介し、実現に向けた産官学連携によるプラットフォームの創設を提案した。

●続くパネルディスカッションでは、関西経済3団体の代表者を迎え、「関西再生のためのインフラ整備構想について」をテーマに、大阪・関西万博、スーパー・メガリージョン形成後に向けたインフラ整備のあり方についての意見交換が行われた。

村尾氏は、多様な産業や研究開発機関の集積、固有の歴史・文化などの関西の強みを生かすには陸海空の一体的なインフラ整備が必要であると強調し、東氏は、スーパー・メガリージョンの西の拠点となる大阪都心部と南部における広域的な整備の重要性とその効果について言及した。また吉野氏は、2050年関西の都市像として「いのち輝く都市」の共創を呼びかけ、万博を契機としたロードマップの作成を提案した。

最後に小林委員長が、万博レガシーの創出には連携と実験が不可欠であると述べ、特に万博を契機としたDX推進実験とそのための連携の重要性を指摘した。

【開催予告】 第10回シンポジウム

日時：2021年10月28日(木) 13:45～15:30

会場：インテックス大阪 6号館

プログラム

14:00～	開会挨拶 谷本 光司 (近畿建設協会 理事長)
14:10～ 15:10	特別講演 井上 信治氏 (国際博覧会担当大臣) 「2025年 大阪・関西万博の成功にむけて」
15:25～ 15:40	プレゼンテーション 吉津 洋一 氏 (建設コンサルタンツ協会 近畿支部長 / (株)ニュージエック 代表取締役社長) 「関西・西日本再生のためのインフラ整備構想について ～「未来社会のグランドデザイン」の共創に向けて～」
15:10～ 17:00	パネルディスカッション 「関西再生のためのインフラ整備構想について ～2025大阪・関西万博、スーパー・メガリージョン形成後を見据えて～」 コーディネーター 小林 潔司 氏 (京都大学経営管理大学院 特任教授) パネリスト 村尾 和俊 氏 (関西経済連合会 副会長 / 西日本電信電話株式会社 相談役) 東 和浩 氏 (大阪商工会議所 副会頭 / 株式会社りそな銀行 取締役会長) 吉野 国夫 氏 (関西経済同友会 幹事・2020年度KANSAI未来都市委員会 委員長代行 / 株式会社ダン計画研究所 会長)

